

芳養小に玉入れポール

田辺工業高 機械科の生徒手作り

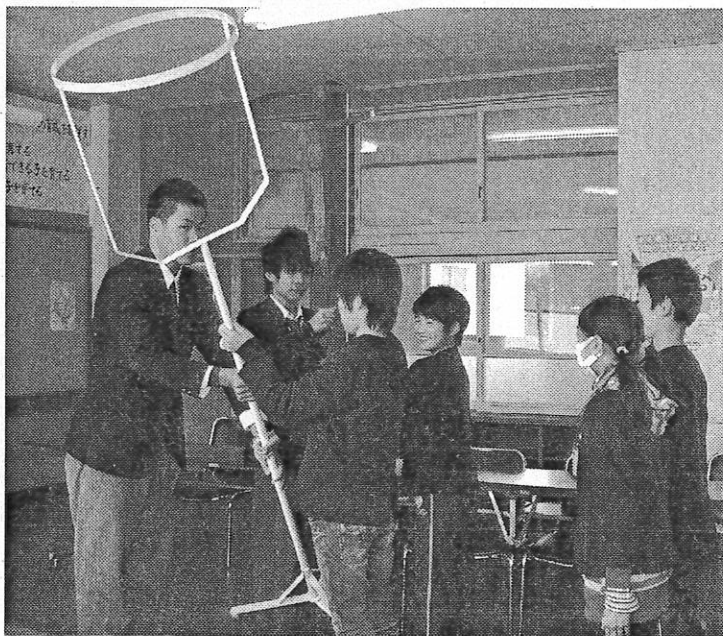
田辺市あけぼのの田辺工業高校機械科の生徒2人は、玉入れ用の紅白のポール2基を製作し、3日、同市芳養松原2丁目の芳養小学校に贈った。同小は「運動会で使うのが楽しみ」と喜んでいる。

ポールが老朽化しているという話を機械科の沖見衛教諭が聞き、3年の榎本亮太君(18)と武森史弥君(18)の2人が授業の一環で作ることになった。

ポールは鉄製で高さ約2・1メートル。高さは調節することができ、3・3メートルまで伸びる。溶接や旋盤などの技術を生かして約9時間かかりで仕上げた。

この日は、沖見教諭と生徒2人が芳養小を訪れ、児童会役員5人がポールを受け取った。児童会長の浜本琳太郎君(12)は「下級生たちに大切に使用してほしい。全て手作りという点がすごい」と感心した様子。榎本君は「先生と相談しながら、習ったことを生かして作ったのだから良かったし、人の役に立てて良かった」と話した。

玉入れ用のポールを贈る田辺工業高校の生徒(3日、田辺市の芳養小学校で)



た、武森君は「円形部分の溶接が難しかった。大事に長く使ってもらえたらうれしい」と話した。

ポールは上部に玉を入れるネットを設置し、9月下旬にある運動会で「デビュー」する予定。